

議の處置に眞の誠意の缺く處あり。後に觀念的左翼馬蹄を弄して、眞の統一と協力を念とせざる団体の存する遺憾を宣明し、むしろ造船聯盟の衰情を瞭解し、今後失深き反憶と協力を持續すべきを決して現在に至つた。

其後造船聯盟は主体となり、産業労働俱樂部を結成し、進んで四月三日に舉行されたる、都下労働団体の日本労働系を楔題として、産業労働俱樂部、日本交通従業員組合、遠信従業員組合等々及吾が東京聯合会三カ五千人は、日本愛國労働懇談会を結成、友誼と協力に導く、日本の非常時に産業人としての使命の遂行に邁進して居る。

組合會議の加盟団体は表面友誼的言辭を披ふとも、幾多の事實に於て、友誼的立場を裏切る事甚だしく事實に於て、何等協力の意志はない。

此れ等は旧來の唯物的な階級意識に執着し、結果道義を無視、勢力状態以外に何等の考慮を撰ぶ事なき態度である。

見よ、組合會議を自から指導すると誇稱する、日本海員組合内部に

惹起しつゝある、告訴事件、及救次に及ぶ血腥さ、樞打事件は、吾々として、労働運動の信頼の上に、不問に附す事の出来得ざる問題である。昭和七年吾々既に組合會議の眞実性に対して、將來をトして警告的立場を採つたのであるが、今や、吾東京聯合会は、日本の労働運動の眞実の統一の上にも、協力のの上にも、徳義の上にも、組合會議に対しては、何等の期待をも失つた。殊に統一問題は労働階級の功利的立場のみを目的とするものであつてはならない。日本の非常に答へ、國民協力一致の基礎たらしむる可く、即ち全日本を一貫する、愛國精神を基調とする會議の結成こそ、吾々の求むる、戦線統一でなければならぬ。

吾々の原則

組織に対して

吾々は眞の組織主体を、勤労階級に置き、組織形態は戦場を原則として中心とす。此点は横断的に又從断的に補わるべきではない、眞の形